

テキスト ヨハネによる福音書2章1～12節

〈水がぶどう酒に〉

ガリラヤのカナで行われた婚礼の喜びの席に、イエス・キリストも同席して下さっています。インマヌエルの祝福が現実となっています。神のみ国の祝宴がここに先取りされていると言えますでしょう。

しかし予期せぬ事態が起こります。客人をもてなす大切なぶどう酒がきれてしまったのです。これは花婿や花嫁はもとより、宴席をしつらえた側の者たちにとっては大失態です。このように喜びのただ中に突如危機や困窮がおそい、それがわたしたちの人生を深くえぐるということはめずらしいことではないと思います。

このときイエス・キリストは水をブドウ酒にかえられ、この宴席をお救いになります。これは主イエスがなされた最初の奇跡であると言われます。

ここには水とぶどう酒との鮮やかな対比があります。水は人間の外側をきれいにすることはできますが、人間の内側をきよめることはできません。

水をぶどう酒にかえるみわざによって、主イエスのご自分が無から有を生み出し、罪を赦し、死者をよみがえらせる力と権威を持っておられるお方であることを示されたのです。すなわちぶどう酒は神の天からの救いの恵み、主イエスの十字架と復活のみわざを通して人間に注がれる恵みをあらわしているのです。ぶどう酒とはそれゆえに主イエスのみ言葉であり、また聖餐の恵みであると考えられるでしょう。

人間は自分で自分をきよめるわざではなく、ぶどう酒、主のみ言葉と杯によって生かされるので

す。

この世界にあってぶどう酒をたくわえている場所はキリストの教会です。主の日の礼拝において、説教と聖餐の恵みを通して、主の民はぶどう酒を豊かに受けて、みずからの命を養います。

しかしそれにとどまらず、教会はぶどう酒の欠乏に悩む世の人々にぶどう酒を持ち運ぶことをもおのが使命とするのです。

ぶどう酒の味見をした宴会の世話役は、はじめのうちこのぶどう酒がどこから来たのかを知りませんでした。そのように世界はいまだ真の命の恵みのありかを知らず、ぶどう酒に渴き、み言葉の飢饉にうめいています。だからこそ、主のぶどう酒をたずさえて遣わされていく召使、すなわち教会のつとめは大きいのです。

〈マリアの祈り〉

主イエスの母マリアは、ぶどう酒の欠乏に気づいたとき、主イエスに「ぶどう酒がなくなりました」と告げました(3節)。ある神学者は、このマリアの短い一言こそが祈りそのものだと語っています。

そのとおりであると思います。祈りとは人間がみずからの困窮の中で主にぶどう酒の欠乏を訴え、ひたすらにぶどう酒を願い求めることなのです。

マリアは真に求めるべきお方に、真に求めるべきものを求めたのです。わたしたちも自分自身の欠乏を知り、単純素朴にぶどう酒を祈り求めるものでありたいと思います。(木下裕也)

テキスト ヨハネによる福音書2章1～12節

〔単元のねらい〕

ヨハネによる福音書は、主イエスが最初になされた奇跡としてこの物語を記す。主イエスは、婚礼というもっとも人間的な喜びの場に共にいてくださる。しかも、その喜びのはかなさを先回りするかのようにして危機を祝福へと変えてくださる。この物語に込められているメッセージは広く深い。水がめの意味、ぶどう酒の霊的な意味などについて、ヨハネは読者に告げる。しかし、この説教では主イエス・キリストが共にいてくださる人生の幸いと確かさを示すことに集中し、その主を信仰によって迎え入れることへと励ます。なお、『子どもカテキズム』の問22を参照のこと。

「イエスさまが助けてくださる」

イエスさまが、伝道のお働きをし始めたばかりのある日のことです。ガリラヤのカナという村で結婚式が行なわれました。結婚式が終わると、お祝いが始まります。このお祝いの席は、大勢の人たちがやってきて、何日もかけて祝われる、盛大なお祝いでした。美味しいお食事やそしてぶどう酒もたくさん振舞われます。二人はとても幸せそうです。

ところが、そんな楽しく嬉しいときに、大変なことが起こってしまいました。ぶどう酒が足りなくなってしまうのです。このままだと、楽しく続くはずのお祝いの席は台無しになってしまいます。一緒に喜んでくれるはずのお客さんたちは、言うでしょう。「なーんだ、途中でぶどう酒がなくなってしまうなんて、きちんと用意することもできないような、この二人のこれからの生活は、大丈夫かなあ。上手く行くかなあ。あー、しらけちゃうなあ。」二人の間にもこんな話がでるかもしれません。「ねえ、〇〇さん、あなたがぶどう酒を用意するはずではなかったかしら？」「いや、〇〇さん、君の責任だったはずだ。」最初の夫婦げんかになるかもしれません。さらにひどくすれば、二人の親戚、両親までが言い争うかもしれません。とにかく、ぶどう酒がなくなってしまうたら、大変なことになるのです。

さて、そこに、イエスさまのお母さん、マリアさんも、イエスさまと弟子たちも招かれていま

た。そのことに気がついたマリアは、イエスさまにこの大変な状況を知らせます。

イエスさまは、これを聞いて、このようにおっしゃいました。「この家には、ユダヤ人のしきたりどおり、手や足を清めたりするための水がめ、100リットルの水を入れられる大きな水がめが6つおいてありますね。その水がめに水をいっぱいにいれなさい。」召使たちは言われるままにしました。けどれももしかすると、心の中にこのような思いが湧いたかもしれません。「ユダヤ人のしきたりに使うお水とぶどう酒が足りなくなったことと何の関係があるのかなあ。」するとイエスさまは、さらにその水を飲んで宴会の席に持って行きなさいとおっしゃいます。召使は、きっとさっきよりもっと強く思ったかもしれません。「エーッ、嘘でしょう。ぶどう酒がなくなりましたので、手や足を洗うためのお水を飲んでくださいってことかなあ。大丈夫だろうか……。」けれども、召使いたちはイエスさまの言われたとおりにしたのです。

さあ、このお祝いの席のお世話をする人が、召使たちが運んで来た水がめを見て、顔色を変えました。「そんな手や足をあらう水をこんなところに運んできて何を考えているんだ、あの召使いたちは。」けれども、よく見てみると、水がめの中には、ぶどう酒があふれているではありませんか。さらに、舐めてみるとそれはそれは美味し

かったのです。今までのぶどう酒よりも美味しいのです。とても驚きました。そして、誰よりも驚いたのは、召使です。そしてマリアさんや弟子たちも驚きました。ぶどう酒が足りなくなって困っていた人たちは皆、驚きました。水がぶどう酒に変わったからです。そうです。イエスさまがなさったのです。イエスさまは、この二人の結婚式を祝福してあげたかったからです。イエスさまは、この二人にだけではなく、僕たち私たちをもこのように祝福したいと思っていてくださるのです。

皆の中で、この二人のように幸せだなあ、嬉しいなあ、楽しいなあと思っているところで、そこからまっさかさまに落ち込んでしまうような嫌な目があったことのあるお友だちはいますか。「ああ、もうダメだ。もうおしまいだあ。」思わず叫んでしまいたくなるような冷や汗をかくようなときです。先生には、あります……。そんなとき、何が助けになるのでしょうか。何が本当に僕たち私たちを支えてくれるのでしょうか。それは、イ

エスさまと一緒にいてくださるかどうかです。もしも、このお祝いの席にイエスさまがいてくださらなければ、この二人の始まったばかりの新しい生活はどんなに悲しく、大変なことになってしまったことでしょう。

でも、二人は、自分たちの結婚式にイエスさまをお招きしていたのです。そうです。僕たち私たちも、嬉しいときも、悲しいときも、健康なときにも、病気のときにも、いつでもイエスさまをお招きしてください。でも、本当を言うと、イエスさまの方が、皆が願うより先に、「わたしのところに来なさい。わたしはいつもあなたと共にいるのだ。」と招いておられるのです。だから、僕たち私たちは、今日も、イエスさまに教会に来ることができたのです。だったら、僕たち私たちも、積極的に、「イエスさま、どうぞいつも一緒にいてください。イエスさまから離れないように助けてください。」とお祈りしましょう。

(相馬伸郎)

[今日の暗唱聖句]

ヨハネによる福音書 1章14節前半

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。

わたしたちはその栄光を見た。

〈ねらい〉

真の救いの恵みを与えてくださるイエスさまが共にいてくださることの幸い、平安を感じる。

〈展開例〉

このカナの結婚式でぶどう酒がなくなったときにイエスさまに命じられて水がめに水を汲んだ僕たちはどんな風に思ったでしょう。どうしてこんなことをするのか不思議に思ったでしょうね。おまけに、この水を汲んで宴会の席にもって行きなさいというイエスさまのお言葉を聞いた時は、びっくりしたでしょうね。ぶどう酒がなくて困っている時に、手や足を洗う水などもっていったらしかられるに違いないと思って怖くなったかもしれません。けれども、僕たちはイエスさまのおっしゃるとおりに従いました。すると、水はぶどう酒に、しかも前のものよりもっとおいしいぶどう酒に変

わっていたんですから、びっくり仰天ですね。こうしてイエスさまは、この二人の結婚式を祝福してくださいました。

この奇跡は、イエスさまの救いの恵みを表しています。どんなに困ったことが起こっても、わたしたちを命がけで愛してくださって、一番よい方法で助けてくださるイエスさまと一緒にいてくださるなら、わたしたちは何も怖がらなくてもいいのです。

〈お祈り〉

天のお父さま、どんなに困った時も、どんなに悲しい時も、イエスさまと一緒にいてくださることを、わたしたちが忘れることがありませんように、どうぞお導きください。イエスさまのお名前によってお祈りいたします。アーメン。

〈やってみよう〉

工作をしよう！

コロコロ コロちゃんを作ろう！

- ① 厚手の紙で同じ大きさの円を2枚つくる。
- ② それぞれの面に色をぬったり絵を描く。
- ③ それぞれの円の中心に向って紙の厚みと同じ切り込みを半径の $\frac{1}{4}$ くらい入れる
- ④ それぞれの切り込みどうしをはめこんで出来上がり！
- ※ 坂からころかたし息をふきかしてみよう！
- ☆ おやつのおびせんべいでもつくれるのだ！（しかられでもしらないよ!?)

〈ねらい〉

なんでもできるイエス様がいっしょにいて助け
てくださるからだいじょうぶ！

イエス様が私たちが神さまのところへ道に迷わ
ないように連れて行ってくださる。

〈展開例〉

礼拝で聞いたお話を思い出しましょう。

この結婚式の花婿・花嫁は、ぶどう酒がなくな
りそうになったところを、イエス様に助けていた
だきました。

○みなさんも困った時にだれかに助けてもらった
事があるでしょう。どんなことがあった？

※子どもたちのレスポンスを受け入れながら、教
師が主に助けられた経験を語りましょう。

ここでは、「回心」ということよりも、日々の
祈りが聞かれた、というような経験が良いと思
います。

私たちのこの世の歩みにおいてはいろんなこと
がありますが、イエス様がいっしょにいてくださ
るから「すべてのことはわたしにとって益である」

(ローマ8:28) という喜びを語りましょう。

○先週、イエス様は私たちが神様のところへつれ
ていってくださる、ということをお話しました。
その道のりでも、イエス様は私たちが助けてく
ださいます。

※神様への道を踏み外してしまって迷いそうに
なった時に、イエス様が助けてくださって、ま
た神様への道に戻ることができた教師の経験を
かたります。どんな小さなことでもかま
いませぬ。教師自身が、イエス様に守られ導かれ
ている事を改めて感謝し、喜びを語りましょう。

〈ちいさなお祈り〉

○イエス様が私を助けてくださったことを一つ思
い出して、「ありがとう」とお祈りしましょう。

○イエス様がいつも私といっしょにいて、迷わず
に神様のところに行けるようにまもっていてく
ださることに、「ありがとう」とお祈りしまし
ょう。

〈やってみよう〉

ゲーム：目かくしクレーン

- ・用意するもの 目かくし用タオル
ジュースの空き缶 5個くらい

- ・一人ずつ目かくしをし、片手で空き缶を積み上げていく。
制限時間1分間で、たくさん積み上げた人が勝ち。
まわりの人は「もっと右」「もっと上」と声をかける。

〈ねらい〉

イエス様がいつも私たちと共にいて、支え、助けてくださることを学ぶ。

〈展開例〉

1. 礼拝説教のおさらいとして、質問し、対話しよう。

- ①ぶどう酒がなくなったことをイエス様に知らせたのは誰でしたか。(母マリヤ)
- ②イエス様は召し使いたちに何とおっしゃいましたか。(「水がめに水をいっぱい入れなさい」)
- ③イエス様が人々の前で奇跡を行ったのはこれが何度目ですか。(一度目)

2. 話し合ってみよう。

- ①結婚式の後のパーティーや披露宴に出席したことはありますか？ 新しい家庭の誕生をみんなでお祝いする、とても楽しくて賑やかな時ですね。でも、イエス様のお働きとはあまり関係がない場のようにも思えます。イエス様はこれから病気の人を治したり、お腹がすいている人に食べ物を与える奇跡を行われますが、最初の奇跡はこのような喜びの場を

救うために行われました。イエス様は大きなことでも小さなことでも、私たちのことをよくご存知で、常に必要な助けの手を差し伸べてくださるのですね。イエス様が共にいて助けてくださったことを感じた出来事はありませんか？

- ②イエス様の母マリヤは、ぶどう酒がなくなって困っていると知った時、すぐにイエス様にそのことを知らせました。イエス様が助けてくださる、その力を持っておられることを知っていたのですね。私たちは何か困ったことがあった時、すぐに素直に神様にお祈りすることができるのでしょうか？「こんなお祈り聞いてもらえないかな」と思ったことはありませんか？

☆子どもたちの率直な意見や経験を聞き、互いに話し合う。

☆イエス様が私たちの身近にいて、絶えず導き、助けてくださること、神様に素直に祈り願うことの大切さを確認する。

☆教会学校として、または個人の祈りの課題があれば、分かち合い、覚えて共に祈る。

ねらい

- 主イエスが、水をよいぶどう酒に変えて人々を喜ばせたように、人々の魂の渇きをいやすお方であることを学ぶ。

展開例

- よいぶどう酒とは、よいぶどうの木の実り、成果と考えられる。主イエスは、旧約のイスラエル(ぶどうの木にたとえられる)の成就として、よいぶどう園の実りを人々にもたらすお方として、この世に来られた。この奇跡は、主イエスのこれからの、神から与えられた働きの成果の先取り、予見、しるしであった。

- 最初の奇跡が婚姻の喜びの席でなされたことは、主イエスの福音が私たちに喜びと感謝をもたらすものであることを示している。

話し合ってみよう!

- 主イエスと信仰者の関係は、しばしば婚姻の関係にたとえられる。この意味について、話し合ってみよう。

祈り

- 主イエスは私たちに喜びと祝福を与えてくださるお方であるという、信頼感をお与えください。

○暗唱聖句○

ヨハネ福音書1:14

○祈りの課題○

聖書日課

日	ヨハネ福音書	2章1～12節
月	マルコ福音書	2章18～22節
火	エフェソ書	5章21～33節
水	マタイ福音書	22章1～14節
木	イザヤ書	5章1～7節
金	ヨハネ福音書	15章1～5節
土	ヨハネ福音書	15章6～10節

☆三二日記☆